



UP-LE

変わる時の中で



今年も残すところ数日。二年生は卒業研究の仕上げに、一年生は後期のカリキュラムに力が入っていることでしょう。その中で、幾つかの特別講座や防災訓練が催されました。

南向きの大きな窓

“勿体ない”と云いつつ

学校長 榎原英勝

最近ではコンパインのような機械の普及で、稲架（ハザ）を見ることなく収穫を終える田圃も少なくないようだが、私の生家では、私の知り得る半世紀此の方変わらぬ秋の景色で、祖父の時代からと云う栗丸太の稲架が今もって活躍している。

そうした昔からの風景の中の脱穀作業のこと。七、八段にもなる稲架の最上部は地上四メートル以上。これにより登ってポンポンと稲束を投げ下ろすのは当方の役目。束ねて運ぶのが妻と子供で、老父母は脱穀機周りの作業と、分業で日が一日行った。

作業も終盤となると、老父母は稲架の下に抜け落ちた稲穂を拾い出した。さながらミレーの「落ち穂拾い」である。今年も豊作で米余りと云うのにと、一つや二つ雀の餌のにと、こちらは論で、「勿体ない」時代を生きた老父母にはごく自然な行為であった。翻って、時に教室で教科書やノートの置き忘れを見ることとある。また、事務室に持ち込まれる落し物に多いのがボールペンなどの筆記具だが、中には正確に時を刻む立派な腕時計を預かることもある。

何時になっても落とし主の現れないところを見ると、とうに代替を身につけているの

だろう。千円も出せばファットショナブルで多機能。最新の時計が手に入るのだからそれも分からなくもないが、まだまだ十分使えるもの、「勿体ない」と感じないのだろうか。「勿体ない」と云えば、こんなこともある。

バブルの崩壊は社会・経済の様相を一変してしまった。それは雇用環境に顕著で、当校でも一昨年、昨年に続き学生諸君は大変難しい就職活動に臨んで来た。こうした時、協賛会や地元企業から寄せられる幾つもの暖かいご要請、これは本当にありがたい限りである。

少し前のこと、T社から「希望者の推薦を」と嬉しい求人をお願いした。当地方の有力企業、何とかお世話になれたらと考える当然と思うのだが、その気になる学生が現れない。結局、このご要請に応えることが出来ず仕舞いであった。

元より職業選択の自由を奪うものではないが、このような時代であるだけに尚更、折角の機会にチャレンジもせず辞退してしまうことを、「勿体ない」と思うのは、やはり一方的な論理なのであろうか。

ナポレオンは「己の辞書に不可能は無い」と言ったそうだが、若しかして現代の辞書から、「勿体ない」が欠落しているのかも知れない。

話を聞いて

一年 男子

僕はこの先生の言っていることはすごくいい事だと思った。病院に入院している時の心のささえは家族や友人の声だと思ふ。僕は入院した事はないけど知り合いの人が入院している時会いに行くとすごくうれしそうだった。ベットから動く事すらできない人に励ましの言葉を言うてやろうとしても忙しくて行けないときベットの側に電話があればどんなにいいだろうと思ふ事が何度かありました。あとより

くせいえんの人達にコンピュータなどを与えて体の弱い人でも何かが出来るといふ事を思い知らされた気がします。どんな人でも何か一生懸命になってやれるものがあれば嬉しいものだと思います。そしてそのために生きていけるというのは何より嬉しいと思ひます。

それよりこの人達はすごいと思います。たとえ遊びから始めてもテレビで出るほどの作品を作り上げてしまうというのは、はつきり言って僕に出来ないと思います。それに何かに懸命になれるのがうらやましいぐらいです。

インターネットからインターネットへ

特別講座の感想

二年 男子

那野彦氏の講演について、一番思ったことを書きたいと思ふ。それは、『携帯電話』のことについてである。「病院では携帯電話が使えなくて残念である。」みたいな事を言っていたが、なぜ残念なのか僕には理解できなかった。

なぜ、時として他人に迷惑をかける携帯電話が必要なのか。病院側では「携帯電話を病院

内で使うと機器が壊れてしまうから」という理由がある。

しかし、時がたつにつれ、病院でも携帯電話が使える時代が必ず来ると自分は思ふ。

そうなるとうとうと、病気で寝ている人たちは、あの独特の音を聞きながら眠らなければならなくなってしまう。自分自身に世の中の残酷さというものをよりいっそう感じさせられた講座になった。

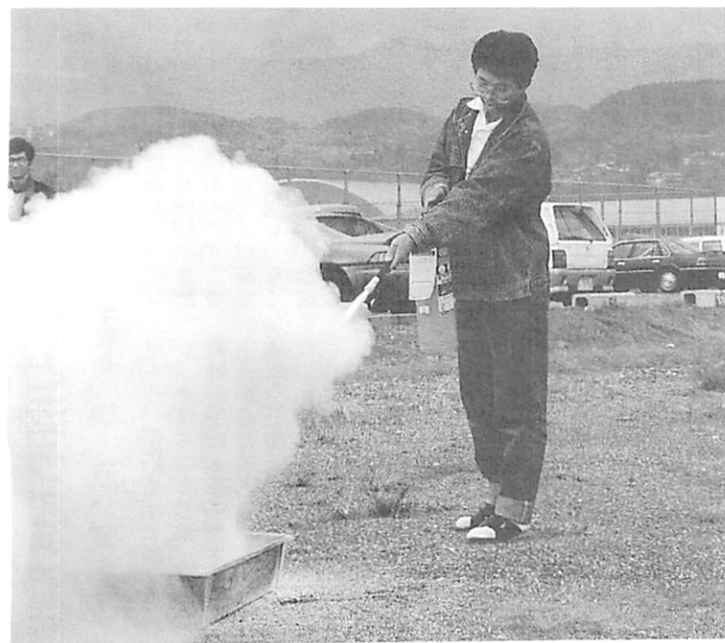
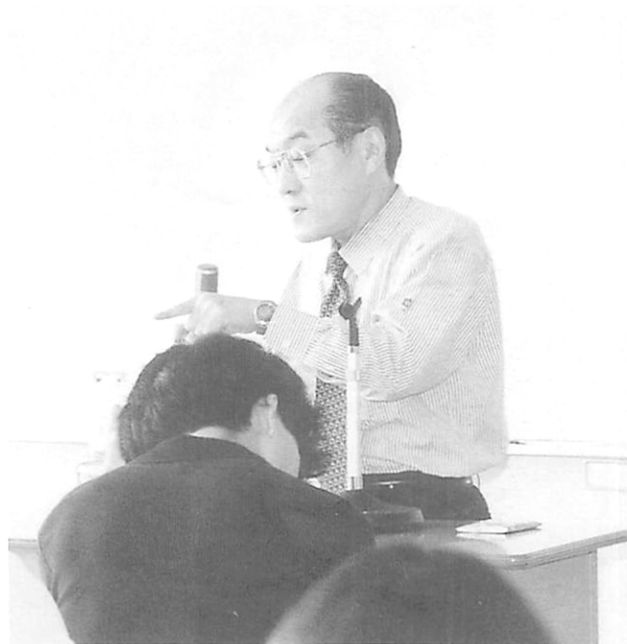


防災訓練について

一年代 表

防災訓練の感想といっても、あまりないのですが、消火器を扱ったうえで、火事というのはとても怖いということを感じさせられました。しかし、この防災訓練は、あまり役に立たなかったように思ふ。理由としては、皆が意識を持っていなかったからだと思ふ。小、中、高でも行われたが、整列した上で全員校舎から出たか確認するということがなかったからです。

この防災訓練の後で、教室に入り、平成七年一月に、阪神大震災がおきました。その時のビデオを見ることになりました。死者四千人もでたのだが、もっと他の地方より援助がでれば、もっと、被害がでずにすんだと思ひます。国会の総理大臣が行動しなかったためだと思ひました。又、いつ起きるかわからないので恐ろしさを感じました。



今回の特別講座では、主張したいことがまいちよくわからなかった。しかし、得るものはあった。いろいろな知識をふくめて話してくださったので、とてもためになった。
特にフラクタルに関しては、とても興味をもった。最近の授業で少しばかり習っていたが、あまり気にせず、「このくらい簡単にできるのかな。」と思っていた。しかし、これがとても

フラクタル

一年 男子

すごい技術だということはこの講座で知った。シダの葉を作り出している自己相似性。そしてこのシダは無数の類似品で体を作っているので無限の解像度を持っている。そういったことを聞いて驚いた。
自分の中に自分を無数に作り出していくことで、いろいろなものを表現できる。フラクタルはコンピュータの中ばかりではなく他の方面にも応用している。そうなのかなと思う。



遺伝的情報処理と人工生命



石井直宏氏の話を聞いて

二年 男子

十一月十三日に行われた特別講座の感想を書きたいと思う。話は少し複雑で僕には理解できなかつたがよりは、生物の遺伝的アルゴリズムもコンピュータの遺伝的アルゴリズムも同じものであるということを知り、石井氏は言いたかつたのではないかと。エンドウの遺伝子の図で説明してくれたが緑色のエンドウと茶色のエンドウの遺伝子を組み合わせると、緑と茶色のエンドウが出来る。



これが同じようにコンピュータにも同じ事がいえる。遺伝的アルゴリズム(GA)には、生殖・交差・突然変異の三つの基本操作に基づいていることがわかつた。
僕にはとつても理解しがたい話であつたが、とても良い特別講座になつたのではないかと思つた。

学校に思う

匿名希望

一言にマルチメディアという言葉にとらわれて、今の日本はマスコミに流されている。
今の社会は僕たちをマルチメディアコースとして認めるまでにとどまっている。
そう言う会社が決まつて言うことは、「君にどこまで才能があるのか今一わからん。」
それを聞いて確かに自分でも分らない。僕たちにどんな才能があるのか？
コンピュータを扱うことは、現に僕たちは二年間で学ぼうとしている。がしかし、デザイン的なその人の持つ価値観と言う物は時間をかけて培う物ではないだろうか。
コンピュータを扱うことは二年でだいたい出来るだろうが、デザインのなその人の価値観という物は触れば触れるほど伸びていく物のだと私は思う。
そこで、少しでも僕たちがデザイン的な物に触られるよう学校側でも考慮していただきたい。

二年生は各コースの生徒一人一人が各々のチームごとに卒業研究というものを進めていることと思つています。その卒業研究というものの捉え方は人それぞれだと感じることがあります。
そのチームは一人一人がそれぞれに役割を持っていて、研究をしている自分たちも楽しみながら、発表に間に合わせようと日々頑張っている。その様子を目にします。自分たちの卒業研究というものを彼らのものとを比較してしまい、少し羨ましく思いました。
自分たちが意気込んで、打ち込むことができるもの。。。
彼らの姿と自分たちがあまりにも違つているように思えて、いろいろと考えます。
自分自身の気持ちの持ち方さえ、自分自身の物の捉え方さえ上手に持てたならこんなことを思わずにいたのであるか。
卒業研究についていろいろと考える日々が続きます。

卒業研究と

言つものは
二年



サークルの存在と意味

二年 年

校内にCG・アニメサークルというものを設立したのが一年と数ヶ月ほど前のことになりました。卒業を迎えれば就職し、一社人として今の社会を歩んでいくわけです。

「同じような話題で楽しく騒ぎあえる仲間が欲しいじゃないか。」

「コンピュータを扱って、なんかやってみようじゃないか。」

「サークルというものが無いのなら、俺たちで作ってみようじゃないか。」と、というようなことを思い出します。

サークルを校内のものとして認めていただいて早々に、大仕事を任せたりもしました。

日本の人形劇アニメで有名な川本喜八郎先生をお招きしての特別講座のため、事前からの準備、チケット制作、パンフレット制作、特別講座当日の進行予定など、とても忙しかったことを思い出します。

あれから一年余り経ちますが、活動らしい活動をしていないのが今の現状です。とは言っても昨年末にはサークルの会報を発行するために頑張っていました。

生徒数が少ない今の現状の中で学校を盛り立てられるのは、やはり生徒一人一人なんだと思います。

学校を卒業さえできれば他のことはしたくないという意見もあるのでしょうか。

しかし、何かに挑戦してみたい気持ちがあったら、少ない人数でも新しいサークルを作ってみて学校を盛り立ててみようとは思いませんか？

我々のサークルのように名前だけが存在しているようでは意味の無いものかもしれません。学校生活を造りあげられるのは生徒一人一人であろうと思います。



各種合格者

ビジネス能力検定 日商ワープロ検定

3級

- 木下友美
- 塩沢恵子
- 清水一彦
- 戸谷正治郎
- 富内めぐみ
- 米山賢児
- 池野由紀
- 若色里佳子
- 宮崎智洋
- 中平満

3級

- 池野由紀
- 戸谷正治郎
- 若色里佳子
- 宮崎智洋
- 長谷川佳紀
- 市瀬洋平
- 岡沼利枝
- 亀村英子
- 熊谷尚樹
- 佐々木克仁
- 椎名善之
- 椎名善之
- 竹村貴宏
- 田中美妃

4級

- 中島誠司
- 中平満
- 三浦善文
- 宮澤文崇
- 北村純一
- 園田真
- 唐澤寛志
- 若色里佳子
- 久保田哲志
- 佐々木克仁
- 椎名善之
- 柴田安雄
- 田中美妃
- 平沢光洋
- 三浦善文
- 宮澤文崇

2級

情報処理活用能力検定

スケジュール

12/23~3/7

(12月)

- 23日 天皇誕生日
- 24日~1月5日 冬休み

(1月)

- 6日 年始式
- 15日 成人の日
- 25日 一般入試
- 31日 学園祭

(2月)

- 1日 学園祭 (一般公開) (10周年記念講演)
- 9日 秘書技能検定 (2・3級)
- 11日 建国記念日
- 18日~21日 卒業試験 (2年)
- 22日 一般入試
- 23日 ビジネス能力検定

(3月)

- 3日~6日 1年後期試験
- 7日 卒業式

編集後記

私達の委員会活動は主に学校新聞UP-LEの制作、編集などで、今年度二度目の発行となる。

各学年二人ずつ、合計四人のみの少人数で構成されている委員会だが、それぞれの分担さえはつきりさせていけば、編集期間というものは何週間もいるものではない。

しかし、委員長である自分が、頭の中を手際よく切り換えていなければどうにもならない。時期的には一年生に生徒会役員を引き継ぐ頃である。

新しくこの委員を引き継いでくれる委員長にこの役をお任せできれば私としてはとても安心できるのである。

UP-LEの発行に責任を持つことは根気がいる物である。文章という物を「是非書かせてください」という人が存在しない限り原稿は集まりません。UP-LEの記事を委員から頼まれた場合は快く引き受けて欲しいものです。

委員だけがいくら頑張ってもこの新聞は成り立たないのですから。今回のUP-LEのための原稿を書いていただいた方々を始めとして、一言、「ありがとう」ございました。」